

越前町議会・令和5年9月定例会一般質問【石田和朗議員】

(令和5年9月7日 午前10時38分 開始)

○4番(石田和朗君) 私は、越前町で生まれ育ち、学校卒業後も町内で勤務して、家内は隣の宮崎地区から嫁いできて、やがて50年です。なれ親しんだこの町をこよなく愛する者の一人です。

議長のお許しを得ましたので、通告に基づき一般質問をさせていただきます。

質問の趣旨は、越前町の観光魅力アップについてです。

質問の制限時間が30分ですが、短いんですか、長いんですか、分かりませんが、今回のテーマに至った経緯から述べます。

先日、越前町立図書館宮崎分館で女性図書館員さんと話しながら、小曾原区に在住の古川さんが古い写真等を参考に描いた元福井鉄道鯖浦線の紙芝居を拝見いたしました。鯖浦はセイホと読みます。この浦は四ヶ浦、梅浦のことをいいます、歴史的に。

鯖浦線は、織田の始発から樫津へ、そして間もなく中央で分かれた一本杉、いわゆる千足杉ともいいます、を通り、桜満開の陶の谷に到着、そこから蟬口のお寺に咲くしだれ桜を見て佐々生を通過、西田中までとやってきました。高校生だった私は、ここから急な坂道を上って丹生高校の校門をくぐった記憶がよみがえります。

なお、電車は水落が終点で、そこから福井市内や武生市内などまでの電車に乗り換えて通学する友人等も多くいました。

その後、大学に進学した私は、卒業し、織田へ帰るときにも鯖浦線に乗車し、知り合いの家に立ち寄ったり、また翌年に鯖浦線が廃線になったときにも乗車したことなど、いろいろな思い出があります。

鯖浦線の思い出を振り返るきっかけとなった紙芝居を拝見して以降、心の中にふつふつとしたものが沸き上がってきましたが、つい先日、妻と一緒に陶芸村の「だいこん舎」へおそばを食べに行く機会がありました。そこで越前町を盛り上げるためにというアンケートにご協力くださいというチラシを見つけ、その内容は、皆様からの貴重なご意見、ご感想を参考に、より魅力的な観光地へと磨き上げるために募集していると書かれていました。

また、そこには御蕎印帳もおいてあり、御蕎印帳というのは皆さん、よく分かっていただくんでしょうけれども、御朱印帳みたいなものです。本物の御朱印帳はこういうものです。いわゆる神社仏閣にある御朱印帳のようなものですが、そば好きの私は迷いなく1冊買いました。参加している店、そば屋さんはどこですか、どこどこですかと店主に尋ねました。それらは皆さんも行ったことのあるなじみのあるお店ばかりであり、今後、訪ねてみようと思っています。

このように、何にでもものめり込む私は、スキーや城、神社仏閣、山、海、湖、川、離島、高層建築物、道の駅のほか世界遺産など、全国各地へ旅行し、果ては海外までも時間があれば妻と一緒に出かけ、それぞれの観光地での取り組みなども肌で感じてきました。

アンケートの話に戻すと、現実にはQRコードをスマートフォンで読み取り、ウェブから回答くださいとあり、こうしたデジタルに弱い私にとってハードルが高過ぎると感じたものの、越前町を盛り上げるためにもということで回答した次第

です。

その回答の内容ですけれども、4か町村合併時には織田、宮崎地区は美しく、それなりににぎやかだった感じが、今は寂しい感じになっていると書きました。合併してから引き継がれた越前町の四大祭りを振り返ると、越前陶芸まつりは、越前焼、焼き物を目当てに多くの方が訪れていますが、私は販売されている朴葉飯やおそばなども大変おいしくいただきました。また、道中のハナミズキは整然と植栽されて、根元の植樹ますの花々も地元の人たちに管理され、素晴らしい景観です。

次に、越前みなと大花火は、港を舞台に1万発の美しい花火が迫力ある音と共に打ち上げられ、さらには音楽とコラボするなど、感動を描くものであり、合間に食べる焼きイカも越前を感じるができます。ただし、観客の出入りが一時に集中し、特に帰路、帰りの渋滞は恐ろしく感じます。駐車場については、越前地区内ではなく、織田地区の公共施設の駐車場も活用して、シャトルバスなどの運行も一考して緩和したらと思います。

あさひまつりは、よさこいの練習や様々な準備に関係者の方が多くの力を注いでいることを感じ、夜は色とりどりに輝くあんどん山車の引き回しとフィナーレの花火に夏のお祭りだなと実感できます。

O・T・A・I・K・O響は、雨が降ろうと実施されてはきていましたが、今年めっちゃくちゃな炎暑で大変でした。観客は1曲1曲に酔いしれます。スタッフ活動も、いつの回でも鮮やかですばらしいものがあります。

これら四大祭りのほかにも、私の住む織田地区の笈松地区には、越知山をはじめ悠久ロマンの杜、もうすぐ封切りの映画「おしよりん」の撮影場所となった、将来聖地になるだろう旧萩野小学校笈松分校があります。

隣の宮崎地区には越前陶芸公園で四季の風景を楽しむことができ、朝日地区は泰澄の杜やホッケー場など多くの方が訪れ、越前地区は水仙ランド、呼鳥門、玉川温泉、海岸線の景観を生かした資源があり、さらには建設中である梅浦バイパスのループ式トンネルまでも、やがて景観価値が生まれるのではないかと思います。

ほかには、織田文化歴史館は劔神社をモチーフとしての建物であり、雨田光平記念館も町内唯一の美術館、織田小学校は越前瓦屋根で木造造り、ほかに自慢できる学校でございます。

延々と一般質問の経緯を述べました。

今から何を希望したいのか、何を町長さんにお伺いしたいのか、これだけ素晴らしい町の資源がありながら、これを生かし切るためにまだ何か足りないことがあるんじゃないでしょうか。

北陸新幹線の敦賀駅までの開業が近づく中、我が町の観光地へ赴くための交通手段のほか、町としての観光施策等の支援体制、そして町内の皆さんの観光に対する醸成などももっと変えていく必要があるのではないのでしょうか。

先ほどの最初の紙芝居を思い起こすと、鯖浦線沿線の宮崎地区はハナミズキの植栽は充実していますが、お宝は宮崎地区までのキンモクセイ、それは織田の花です。その花の香り、佐々生から西田中までのサザンカ、隣の会館はカメラアホールといいますけれども、カメラの並木を植栽して、旅人、通行人の心を和ますとか、こうした改善等が心の中にふつつつ湧いてきた思いであり、それらが充実されれば、越前町は日本一、冗談じゃありません、本気で言っています。世界一の観光地の一つに化ける可能性を秘めていると思われませんが、青柳町長のご見をお伺いいたします。

○議長（佐々木一郎君） 町長。

○町長（青柳良彦君） それでは、石田議員の質問にお答えいたします。

ご質問の新幹線駅から本町への交通手段についてですが、町では、令和3年度、4年度に冬季間における福井駅から本町への直行バスの運行実証実験を行いました。利用者は非常に少なく、今年度の実施は見送りました。

また、毎年冬季間運行している敦賀駅からの直行バスは、中京、関西方面からの旅行者に定着しつつあるものの、満足のいく乗車率には至っておらず、さらなる検討が必要と考えています。

一方で、町観光連盟において、平成28年度からタクシーやレンタカーの利用に対し町内での飲食や宿泊を条件に料金の一部助成を行っており、利用者が年々増加してきております。

このようなことから、今定例会でご提案しました北陸新幹線越前たけふ駅やJR武生駅、鯖江駅からの観光周遊定額タクシー事業に、越前市、鯖江市と共同で取り組んでまいります。

2次交通対策に関しましては、引き続き観光客がより使いやすく、魅力のある事業となるよう検討していきます。

次に、観光施設等に関する支援体制についてですが、町観光連盟は、今年3月、観光庁の候補DMOに登録され、3年以内に正式なDMOになることを目指しています。

町としましては、観光連盟が国や県の補助制度を活用しながら幅広い活動を行い、観光地づくりの司令塔となるよう応援していきたいと思っております。

次に、観光に対する機運の醸成についてですが、ソフト面においては、これまで観光事業者や観光ボランティアガイドの研修などを行い、おもてなし力の向上に努めてきました。

一方、ハード面では、民宿、旅館の改修への支援やキャッシュレス決済システムの導入に対する助成を行ってきました。

また、昨年、今年と開催されたオープンウオータースイミング大会は、県内外の参加者から大変好評を得ており、今後はこの大会を広くPRしていくとともに、越前町ならではの新たな魅力を創出していきたいと思っております。

来年春の北陸新幹線の県内開業は、町にとりましてもこの上ないチャンスであり、今年の秋から始まるJR6社と観光事業者と共に開催する北陸デスティネーションキャンペーンにおいて積極的に観光PRを行うなど、町全体を盛り上げてまいりたいと考えています。

最後に、既存植樹ますの管理や街路樹の植栽についてですが、現在、植樹ますの管理は県や町、地域のボランティアで行っており、維持管理に要する費用は増加傾向にありますので、新たな植栽は難しいと考えています。

また、地域からは、高齢化等によりボランティアの確保が大変であるとの声をお聞きしています。今後も地域の皆様と共に維持に努めてまいりたいと思っておりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（佐々木一郎君） 石田和朗君。

○4番（石田和朗君） 町長さんから現実的なご答弁をいただいて、喜んでいいやら、がっかりしたとか、町民がどういう判断をこれからするかなと思っておりますけれども、一番最初に、私は越前町を愛する者として、ここにいらっしゃる方全員がそうだと思います。

ということをお考えたとき、北陸新幹線が越前町へ来た。越前町には鉄道は通って

いません。最初に言った鯖浦線は、あれかって、もともと国鉄やったんですけれども、それもなくなりました。だから、鉄道のない町が鉄道、2次交通といいますけれども、そうしたら、ご答弁のとおり、この2次交通から迅速に越前町、朝日を通り、織田を通り、そして鯖浦線のとおり浜まで行って敦賀から上手に帰ってもらう、そういうことを真剣に、ビッグチャンスという言葉ばかりが走るんじゃなくて、現実的に金がないんじゃなくて、地域の皆さんと話しながらできること、確かに高齢者とかボランティアが減ってきたことは否めませんが、そうは言わずに愛町精神をもっともっと、私も含めて、為政者も含めて、住民と語りながら、やっぱりそうでないと、この町、廃れていきます。廃れさせてはいけないと思うので、町長さんにわざわざこんな高い演壇からご質問をさせていただきました。

ご答弁どうもありがとうございました。

以上です。

(午前10時58分終了)